

戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）
「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム」
平成23年度採択プロジェクト企画調査 事後評価結果報告書

1. 研究代表者：

加納 圭（京都大学 物質－細胞統合システム拠点 科学コミュニケーショングループ 特定拠点助教）

2. プロジェクト企画調査の題名：

イノベーション創出に向けた「科学技術への潜在的関心層」のニーズ発掘

3. プロジェクト企画調査期間：

平成23年11月～平成24年3月

4. プロジェクト企画調査の概要：

本企画調査は、科学技術への潜在的関心層に注目し、民間で行われているマーケティング・リサーチの手法の中で公共機関に妥当する手法を用い、より良い科学技術イノベーション政策に向けた「科学技術への潜在的関心層」のニーズを把握することを目指した。そして、この過程を通じて、マーケティング・リサーチ手法の妥当性、および科学技術イノベーションに向けて「科学技術への潜在的関心層」のニーズを把握する必要性の検証を行うことを目標とした。具体的には、俯瞰調査において4つの手法－①インターネットによる質問紙調査、②マインドマップ（自由連想法）、③グループインタビュー、④シナリオ調査－を用いて、「科学技術への潜在的関心層」の存在や再生医療へのニーズを確認し、国勢調査に合わせた大規模インターネット調査（サンプル数4,159）によって、「科学技術への潜在的関心層」の割合や再生医療への具体的なニーズを割り出した。

5. 事後評価結果

5-1. プロジェクト企画調査の目標の達成状況

本企画調査は、計画当初に含まれている文献や関連動向の調査に関しては十分ではないものの、限られた時間の制約の中で効率的に実施体制を構築し、企画したマーケティング調査については、提案通り遂行することで、一定の成果を上げることができた。また、「潜在的関心層」を見出し、定量的・定性的調査手法によってそのニーズの把握を試みた結果は、貴重な一次資料として評価できる。だが、本企画調査で用いたマーケティング手法については、一般的なマーケティング手法との違いが明確ではなく、過去にもその問題点が提起されたにも関わらず、今回の企画調査においてもその手法を用いる妥当性が十分に検証されたとは言い難い。また、調査対象（サンプル）の代表性や、シナリオ調査における恣意性の排除に関しても、十分な配慮がなされているかについても疑問の余地が残る。さらに、「潜在的関心層」に注目することのユニークさには期待が持てるものの、そのニーズを把握することが、「科学技術イノベーション政策」にどのように寄与し得るのかについては、十分に検討がなされていない。

5-2. 研究開発プロジェクトの提案に向けた準備状況

本企画調査の調査結果においては興味深い所見や示唆が提示されており、今後の研究開発プロジェクトの実施によって、関心層・潜在的関心層・無関心層の特徴や差異が明らかとなるような結果が導出されることが期待される。一方で、示された調査結果は、性別や職業などの属性による違いが反映されている、という結論以上にはならない可能性がある。したがって、今回の調査で半数を占めた「関心層」の固有のニーズを明らかにすることも、研究開発プロジェクトとして取り組む際には重要ではないかと思われる。また、本企画調査において示された結果は、「再生医療」という分析対象の事例に大きく依存するものであり、知見を一般化することには極めて慎重になる必要がある。提案に向けては、今回取り上げた「再生医療」がテーマとして適切であったかの検証も含め、「科学技術イノベーション政策のための科学」事業全体の趣旨に鑑みて、十分にテーマを検討して提案することが求められる。最後に、現実の政策形成への活用につなげるためには、潜在的関心層に絞ってニーズを把握することが、効果的な「科学技術イノベーション政策」にどのように寄与し得るのか、という点を提示し、その根拠や意義をより明確にすることが期待される。また、ニーズを把握する調査の過程で、ニーズを実現することに対する、潜在的関心層の具体的な支払い意志額(willing to pay)を明らかにするなど、現実の政策形成につなげるための視点や工夫が求められる。

以上